

八丈町 ノヤギ生息状況調査業務 最終結果報告

一般財団法人 自然環境研究センター

平成20年度～平成29年度
八丈町ノヤギ生息状況調査業務

平成30年度～平成31年度
八丈町ノヤギ生息状況調査 報告書作成業務

主な業務内容：各種手法を用いたノヤギの生息状況調査
三原山地域におけるノヤギ生息状況調査の結果の整理
「ノヤギ対策協議会」「ノヤギ捕獲作業部会」にかかる会議資料の作成

調査対象地域



八丈富士地域

平成20(2008)年度

八丈富士地域視察（8月）
多数のノヤギを目視で確認



農作物被害調査実施（JA）
アシタバ、ロベ被害
八丈富士牧野での牧草被害

拡散防止網の完成（9月末）
網内部での捕獲作業の実施



平成20(2008)年度

①生息状況調査の実施（1月） 痕跡調査を実施

網の内外ともに糞を確認
網内ではノヤギを目視

②生息頭数の推定

除去法等による推定

9月の網設置完了時に130頭
が生息していたと推定

③段階的な作業計画案の提案

- ・捕獲区域の細分化
- ・罠ヤギの導入
- ・ノヤギ探索犬の導入
- ・自動撮影カメラの導入等



平成21(2009)年度

①生息状況調査の実施（1月）

痕跡調査を実施

網外で糞は確認できず

網内で糞を確認

網内でノヤギを目視

②網外での行動圏の把握

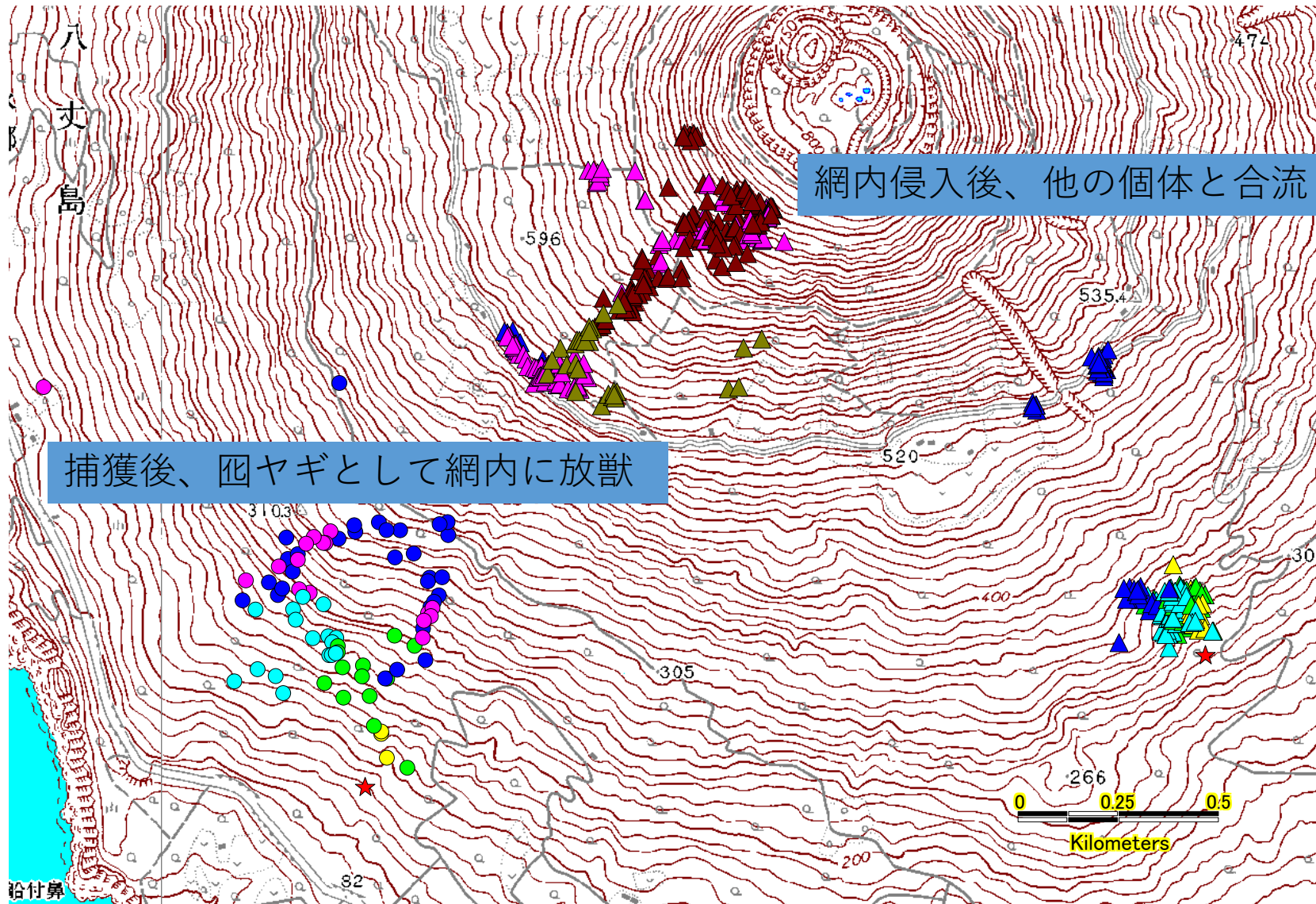
GPSテレメトリー調査を実施

メス2個体にGPS首輪を装着・放獣

7月～1月までの位置データを収集



平成21(2009)年度



平成21(2009)年度～平成23(2011)年度

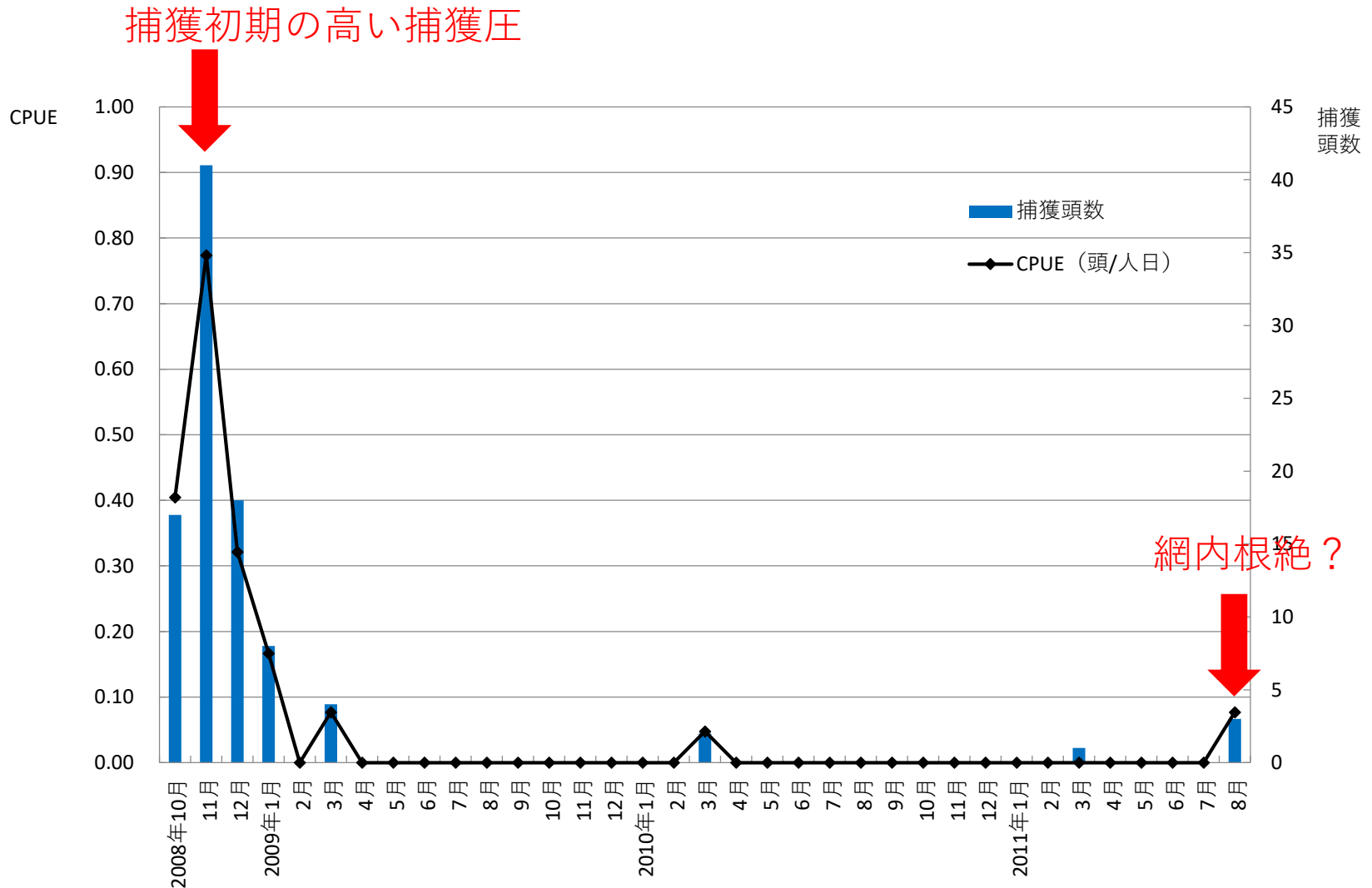
テレメトリー調査の結果

- ・ノヤギは一定の場所を集中的に利用する
- ・大きく移動することは少ない
 - 集中的に利用する場所が特定できれば、効率のよい捕獲が可能

罠ヤギを用いた捕獲の実施

- ・猟友会員による観察
- ・生息状況調査の実施
 - ノヤギの生息場所の把握
- ・利用頻度の高い場所（17・18牧区）に分断網を設置
 - 残存個体の封じ込め後、捕獲の実施

ノヤギの捕獲数と捕獲効率の推移（八丈富士地域）



ノヤギの捕獲数と捕獲効率の推移（八丈富士地域）

捕獲数

- ・ 2011年8月5日までに99頭を捕獲
- ・ 99頭のうち93頭を2008年度に捕獲
 - 捕獲初期に高い捕獲圧をかけ、排除したことが成功のカギ
 - 現場を熟知する地元猟友会が精力的に活動
- ・ 2011年8月6日以降は捕獲実績なしで継続

平成23(2011)年度～

根絶確認調査の実施

- ・ノヤギ探索犬調査（2011年度～2014年度）
→ノヤギの臭気に対する反応なし
- ・自動撮影カメラ調査（2011年度～2015年度）
→ノヤギの撮影なし
- ・猟友会による見回り調査（2011年度～）
→生息痕跡および個体の発見なし



平成23(2011)年度～

網外では

- ・ 飼養ヤギの逸走はあったものの、捕獲に至る
- ・ 条例の施行により管理の徹底強化、町による普及啓発活動の実施
- ・ 地域住民等からノヤギの目撃情報は得られず



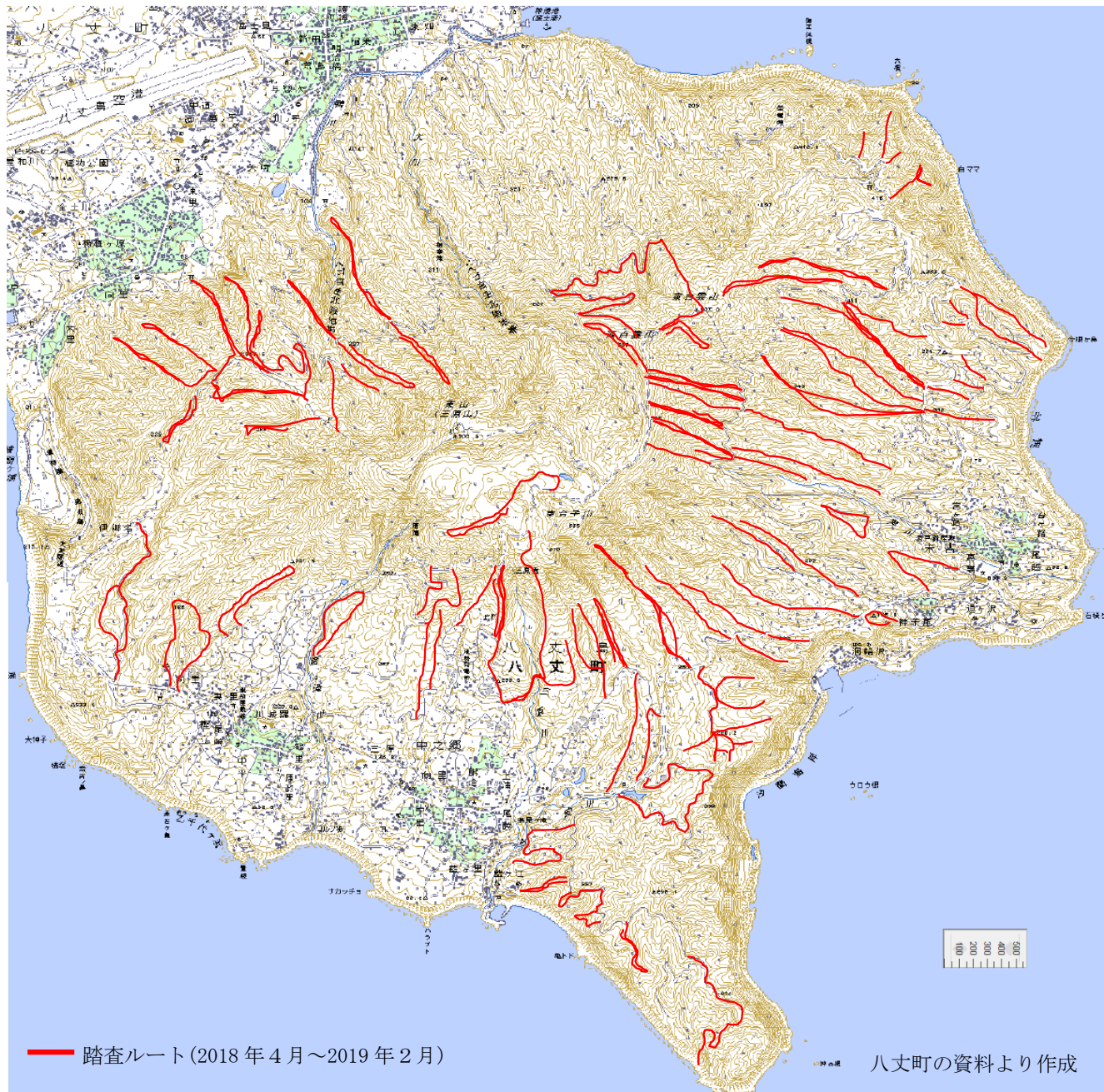
三原山地域

平成21(2009)年度～

- ①生息状況調査の実施（島内在住の調査員）
痕跡調査を実施
→調査結果を自然研でとりまとめ

- ②生息状況調査の実施（自然研）
痕跡調査を実施
自動撮影カメラ調査を実施（2016年度、2017年度）

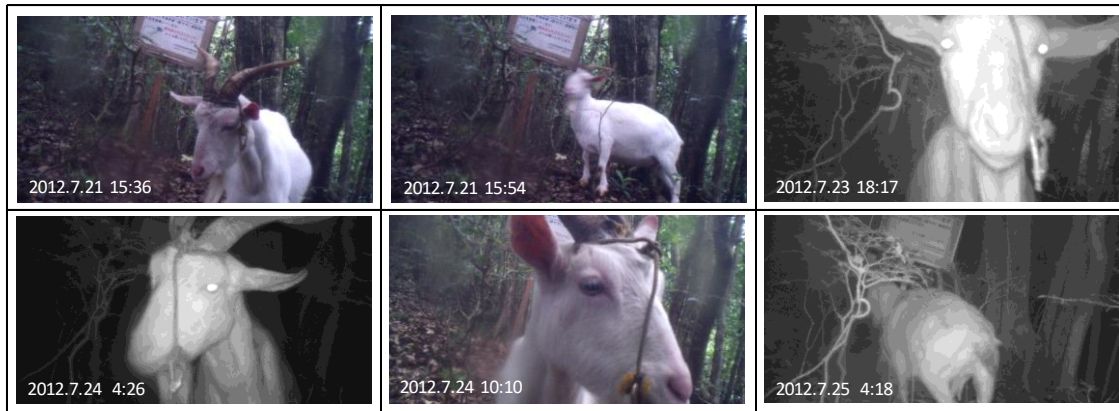




ノヤギの捕獲数（三原山地域）

捕獲状況

- ・ 2010年度および2012年度に計 2 頭を捕獲
→ 島内在住の調査員が確認した個体や生息痕跡により捕獲
- ・ 2012年度の捕獲個体は飼養個体由来
- ・ 2013年以降は捕獲実績なしで継続



平成25(2013)年度～平成31(2019)年度

- ①生息状況調査の実施 平成25～31年度（島内在住の調査員）
 - ・踏査
 - 生息痕跡等は確認されず

- ②生息状況調査の実施 平成25～29年度（自然研）
 - ・自動撮影カメラ調査
 - ノヤギの撮影なし

- ③地域住民等からのノヤギに関する情報なし 平成25～31年度

平成25年度からの生息状況調査等の結果から見て、現在、八丈富士地域、三原山地域ともにノヤギが生息している可能性は極めて低い。

今後の生息状況調査は不要と考えられるが、新たなノヤギを生み出さないための活動を継続していく必要がある。